

- 2面 【学会の目・眼・芽】 会長就任にあたって
 (公社)日本造園学会 会長 宮城 俊作
- 2、3面 【特集】 日造協が取り組む アクションプログラム
 アクションプログラム等推進特別委員会 委員長 和田 新也
 会員拡大プロジェクトチーム 部会長 持田 正樹
 女性就業促進検討特別部会 部会長 酒井 一江
- 4面 【ふるさと自慢】 和歌山県 畑中雅厘子 (株)井内屋種苗園
 徳川8代将軍 吉宗の生誕地 実は「発祥」が盛り沢山
 【緑滴】 月に2回のリフレッシュ 山下 葉子 (株)南国緑地建設



全国事務局連絡会議の様子

全国事務局連絡会議開催

担い手3法と人材育成確保説明会の開催など説明

日造協は7月23日(木)、東京都千代田区紀尾井町の都市計画協会会議室で、平成27年度全国事務局連絡会議を開催した。会議では本部からの依頼事項や情報提供についての説明、質疑応答のほか、総支部・支部の報告等の意見交換を行った。

全国事務局連絡会議は冒頭、藤巻司郎会長が、「皆様には、常日頃から、協会運営に多大なご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。私どもの業界を取り巻く最近の状況を見ますと、労務費単価の改善や現場管理費率等の引き上げ、ダンピング対策の強化などの措置が講じられるようになり、「アベノミクス」による公共事業費の維持・確保とも相まって、ようやく経営環境が改善しつつあると感じております。これも、日造協として本部と各総支部・支部が力を結集し、長年にわたり取り組んできた要望・提言活動が、一定の成果を得たものと受け止めております。この好機に、全国組織である日造協の果たすべき役割をしっかりと心にとどめ、皆様のご協力を得ながら「会員拡大プロジェクト」に取り組んでまいりたいと思っております。また、「担い手3法」に対応し、担い手の育成・確保の行動計画の立案、若手入職者の確保、技術者の育成、安全衛生の徹底などの諸課

題に取り組んでまいりたいと思っております。あわせて、今後の社会経済の動向を見据え、将来の活動領域の拡大などに取り組み、造園建設業の持続的な発展と安全で快適な緑豊かな美しい国土環境づくりに、貢献していきたいと考えております。皆様の更なるご理解とご協力を、心から願います次第です」と挨拶した。

議事では、①財政・運営中期計画、②会費徴収規程、③入会に関する取扱要綱、④担い手3法と人材の育成確保、社会保険未加入対策説明会の開催、⑤日造協支部事務局サイトによる情報共有、⑥造園技術フォーラムの開催、⑦全国労働衛生週間ポスター配布、⑧要望提言活動、⑨全国造園フェスティバル、⑩全国造園デザインコンクール、⑪職長・安全衛生教育講師養成、⑫資格制度、⑬会員拡大プロジェクト、⑭販売促進等による支部活動への助成(造園安全衛生管理の手引き)、⑮東日本大震災対策本部の復興支援本部への移行及び緑の再生等の復興事業への支援活動方針、⑯総支部・支部交流会の開催等、⑰日造協の年間スケジュールについて、説明及び質疑応答を行った。

その後、総支部・支部からの報告等と公益目的支出計画終了後の事務手続き等の改善について意見交換を行った。

また、17時から、都市センターホテルで懇談会を開催。全国各地からの参加者が交流、意見を交わした。

人事異動

国土交通省都市局関係 (7月31日付)
 辞職=小関正彦(都市局長)
 都市局長=栗田卓也(大臣官房審議官(総合政策局、土地・建設産業局担当))
 辞職=舟引敏明(大臣官房審議官(都市生活環境担当))
 大臣官房審議官(都市生活環境担当)=佐南谷英龍(大臣官房審議官(道路局担当))

樹林

日造協理事、東日本大震災復興支援本部 現地本部長
 株式会社 米内造園 代表取締役 米内 吉榮



緑の再生等に係る復興事業の本格化への対応

東日本大震災発生から4年5ヶ月が経った。日造協では、大震災発生直後に立ち上げた「東日本大震災対策本部」のもと、被災会員・被災地への支援、緑の再生技術情報の関係機関への提供等の支援活動を行ってきました。今、被災地では緑の再生等の復興事業が新たな段階を迎え、これまで以上に支援活動を図る必要があるため、総支部長等会議(5月28日)を経て東日本大震災対策本部の「復興支援本部への移行」が了承され、東北総支部には現地本部を置くことが決定されました。

6月23日の通常総会後、岩手県・宮城県・福島県の各県支部では現地本部を設置。7月21日には3県支部長・事務局長、顧問、総支部事務局で今後の取組体制等について打合せ、東北総支部内に現地本部・事務局を置く運びとなりました。事務局体制の強化のもと出席者の全面的な協力が得られると、力不足ではありますが当方が現地本部長をお引き受けする事に致しました。

現地本部では、被災地の支部会員が持てる造園力を発揮できる環境の整備を図りつつ緑の再生等の復興事業の進展状況に対応した造園工事の円滑な施工体制の確保を図るため、緑の再生等の復興事業工程表や入札契約方式の把握、発注機関等への円滑な施工の推進に関する要望、提言活動等に「定期連絡会」を開催し取り組む予定です。その際には、支店賛助会員の参画と資金面を含め活動強化へのご協力を願いたいと思っております。格別のご協力

をお願い致します。

本年4月10日に東北地方整備局内に東北国営公園事務所が新設され、岩手県陸前高田市高田松原地区・宮城県石巻市南浜地区で国営追悼・祈念施設の整備が本格化しました。この施設は、平成32年度末を目途に国が東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂等を目的として自治体が整備する復興祈念公園の中に整備するもので、現在は基本設計作業中です。福島県でも候補地選定が進行中と聞き及んでおります。

陸前高田市(人口20,222人)の復興事業の現状を例にとると、高田・今泉地区では事業主体のUR都市機構により防災集団移転事業促進事業等の「まちづくり」のための復旧整備が急ピッチに進んでいます。津波で被災した住宅地等の嵩上げに必要な1,000万㎡を超える土砂を土取り場から短期間で運搬するため、総延長3kmに及ぶベルトコンベアが稼働中で、1日の運搬量20,000㎡はダンプトラック4,000台分に相当します。その他にも防潮堤、復興道路等の大規模工事が並行して実施中です。

このような環境の中、復興祈念公園や国営追悼・祈念施設、高台団地等での造園工事にあたっては品質を落とすことなく迅速な施工が求められます。造園業界を挙げて万全の体制を整えねばなりません。これから現地本部が全力で動きますので、日造協会員及び関係者のご理解とご協力・ご支援をお願い致します。

平成27年度 国土交通大臣表彰

建設事業関係功労 日造協から8氏が受賞

国土交通省は7月9日、平成27年度の国土交通大臣表彰受賞者を発表した。建設事業関係功労の都市計画事業関係として、日造協からは8氏が、「多年造園工事業に精励するとともに関係団体の役員として業界の発展に寄与した」ことを表彰理由に、国土交通大臣表彰を受賞した。

表彰式は7月10日、東京都千代田区霞が関の国土交通省共用大会議室で行われ、今年度は217人、6団体が表彰された。

日造協関係の受賞者は以下の通り。
 浅田通明氏(64)宮城県名取市、(株)東北造園代表取締役社長

- 水庭博氏(64)茨城県日立市、(株)水庭農園代表取締役
- 梅川真澄氏(63)東京都多摩市、(株)富士植木代表取締役専務
- 奥本寛氏(64)東京都世田谷区、(株)日比谷アメニス常務取締役
- 磯部久人氏(61)新潟県村上市、グリーン産業(株)常務取締役
- 加茂輝隆氏(60)富山県高岡市、富山興業(株)代表取締役社長
- 高木淳一氏(60)滋賀県彦根市、(株)高木造園代表取締役社長
- 田雑豪裕氏(61)長崎県佐世保市、(株)庭建代表取締役

直面する課題への実効性ある活動を

アクションプログラム推進等特別委員会
委員長 和田 新也

本年度当委員会では、直面する課題に対し、実効性ある活動を行うべく、2つの部会を設けております。本号では紙面をお借りして、両部会の活動についてご報告させていただきます。

両部会の掲げるテーマは、今後の造園界、そして日造協活動の基本的な重要事項として、早急な課題整理と問題解決へ向けての活動が望まれております。部会員及び委員会メンバーの老若男女一同力を合わせ頑張っております。会員の皆様にも活動への参画やサポートをお願いすることが多々あると思っておりますが、何卒ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

「会員拡大プロジェクト」の推進について

会員拡大プロジェクトチーム
部会長 持田 正樹

●日造協の歴史と重要な役割の継続

平成24年に発行された「日造協40年の歩み」を繙くと、日造協は昭和46年436社で設立し、着々と全国の支部、会員を増やすとともに、昭和46年の「造園施工管理技士の創設」平成6年の「指定建設業としての位置づけ」など、強力な要望活動により、元請としての地位確立と現在の業界の社会的地位を築きました。

まさにゼロからのスタートであり、多くの先輩方の熱意と努力があってこそ、現在、会員である我々は社会的信頼を得、造園を生業とすることができています。

そして、設立趣意書にある「本会は時代の要求と国策の赴くところに従い、末永く国民福祉の向上を最終目的として強力に事業を完遂することを銘記する。」

という決意を我々の業界を取り巻く環境が大きく変わった今だからこそ新たに、日造協を将来に渡り健全な形で継続させなければならないことは現会員すべての目指す一致した方向性ではないでしょうか。

●会員拡大の重要性

協会の発展とともに会員数もピーク時の平成9年には1,600社まで増えましたが、造園事業量の減少などにより、平成21年には1,000社を切り、現在は約830社です。

近年は下げ止まり傾向にありますが、今後好転していく空気ではありません。今後3年間の「第2次財政運営中期計画」の試算によると毎年3%の会員増がなければ大幅な会費の値上げなしで今後の協会の健全な財政基盤を確保できない状況

学会の目・眼・芽 第69回

会長就任にあたって

(公社)日本造園学会 会長 宮城 俊作

さる5月23日、東京大学において開催された平成27年度通常総会ならびにそれに続く理事会において学会長(代表理事)に選任されました。今期は、公益社団法人化を含む昨期およびそこに続く過去数年間にわたる学会の組織的な改革の成果を、新たな学会像へと昇華させていくことをもめられる2年間になるものと考えています。この間、下村前会長、増田元会長をはじめ、歴代の会長の卓越したリーダーシップのもとで継続されてきた、学会をあげてのとりくみの流れを減速させることなく、持続可能な学術団体としての基礎を着実に構築しつつ、小さな変革を少しずつ蓄積させていくことが重要になるでしょう。

また本学会は、10年後に創設100周年を迎えますが、これからの10年間は、さらにその後の100年を見据えた学会のあり方について考え、具体的なアクションを継続することが必要になるものと思われまます。2025年を迎えた時、学会は次の100年をどのように展望してほしいか、そのことを強く意識しつつ、具体像を模索する営みを静かに、しかし確実にスタートさせる2年間になってほしいと願っています。

平成25年度から26年度にかけての2カ年、本会の副会長の任にあった私の役割は、主に学会とそれをとりまく実業界との連携を促進するところであり、特に注力したのが、日造協との包括連携事業の一環として、先般刊行された『造園工事総合示方書・技術解説編』の編集でした。その主たる目的は、造園施工にと

どまらず、計画、設計から施工、さらには緑地の維持(育成)管理に至るまでのプロセスをつなぐ一本の強いラインを示すことにありました。そこには、造園工事の発注サイドから延びるラインも確実に接続されることを意図しています。さらに今期の2年間は、そこにしっかりした論拠を与えるために、同書の『基本原則編』を継続して編集・刊行する準備をすすめることにしています。

いうまでもなくこのラインを中心軸として、造園学のコアとなる部分が形成されていることとなります。学術的な活動はともかく、産業界においてこの軸を持続的に強化するうえでは、造園CPDへの積極的な参画が最も効果的な方法のひとつでしょう。必要となる単位数を獲得するために多種多様なプログラムが用意されていますが、特に本会が主催する各種行事への参加に加え、学術研究の発表、技術報告集や作品選集への投稿などの機会を積極的に活用していただくことを期待しています。

一方、この造園コアの部分が強靱なものであるとしても、これをとりまく領域や分野の変化とそこからの要請に対して柔軟に対応できる「しなやかさ」もそこには求められるでしょう。周縁の領域からみた場合に、造園コアの部分がいかにか魅力的なものであり続けることができるかに思いをめぐらし、同時により多様な分野とのコラボレーションの機会を模索すること、それらを常に意識したとりくみの蓄積を期待しています。

特集 日造協が取り組む 「会員拡大」&「女性就

会員拡大プロジェクトチーム

	区分	氏名	会社名	総支部	支部	役職	備考
1	部会長	持田 正樹	(株)もちだ園芸	本部	島根	代表取締役社長	
2	部会委員	大場 啓壽	青葉造園(株)	本部	宮城	代表取締役	アクションプ
3	〃	土志田 淳	横浜庭苑(株)	本部	神奈川	代表取締役	ログラム特別
4	〃	久郷 慎治	(株)久郷一樹園	本部	富山	代表取締役	委員会
5	〃	寺崎 俊司	西武造園(株)	本部	東京	神奈川支店長	
6	〃	鈴木 誠司	(株)日比谷アメニス	本部	東京	取締役	
7	〃	井内 優	(株)井内屋種苗園	本部	和歌山	専務取締役	
8	〃	内山 剛敏	内山緑地建設(株)	本部	福岡	代表取締役社長	総務委員会
9	〃	久保 和則	(株)葉隠緑化建設	本部	佐賀	代表取締役社長	財政基盤強化
10	〃	四宮 繁	(株)四宮造園	本部	北海道	代表取締役	部会
11	〃	下地 浩之	(有)西原農園	本部	沖縄	代表取締役	
12	〃	高須賀盛満	高須賀緑地建設(株)	本部	愛媛	代表取締役	
13	〃	田丸 敬三	東光園緑化(株)	本部	東京	代表取締役社長	
14	〃	森川 昌紀	東洋ランテック(株)	本部	埼玉	代表取締役社長	地域リーダーズ

になります。

また、行政を動かすための要望活動には「数の力」が必要であることは言うまでもなく、何より協会活動全般の活性化を促すためにも会員拡大は重要であり、この取り組みは「待たなし」の状況と言えます。

●プロジェクトチームの発足と構成

私が支部長になった4年前は、最大21社の支部会員が6社にまで減っており、正直なところ会員増などは現実的に無理と感じていました。しかしここ1年、機会がある度に地元の若手に「日造協の存在意義と業界の将来について」自分なりの考えを熱心に話したところ、2社の方に入会していただくことができました。

「実は地方の若手経営者、後継者は何かのチャンスを求めているのでは？」と強く感じ、近年の全国地域リーダーズの活発な活動状況と相まって行動を起こすのは今！との確信を基に会員拡大プロジェクトのたたき台をアクションプログラム推進等特別委員会に提案しました。

その後具体的な取り組みを進めるため、当委員会、総務委員会財政基盤強化部会、地域リーダーズからのメンバーに

よる構成で、プロジェクトチームを立ちあげ、推進の具体策を取りまとめ、本格的なスタートを切ったところです。

●活動の目的と基本方針

このプロジェクトは当然結果として数値目標を達成することが重要ですが、活動を通じて「本部、総支部、支部のさらなる連携強化」と「各地域において執行部と若手の連携により協会活動を活性化させ、魅力ある日造協活動の充実を図る機会とすること」が目的でもあります。

別の言い方をすれば、「活発で明るく活動が楽しい協会」でなければ入会促進はできませんし、現会員のモチベーションも維持できません。

現実的に難しいと思われる方が多数でしょうが、「先輩方が築いた日造協を次世代のためにも将来に渡り健全に継続させたい」という思いは皆様同じはずです。

支部によっては、支部長様と会員の熱意により会員を増やしているところもありますので、成功例なども共有し、会員一丸となって「会員拡大」に取り組んでいただきますよう担当部会長として、また、地方の日造協を大切に思う一会員として心よりお願いいたします。

「会員拡大プロジェクト」経緯と骨子

今年度の検討状況と具体的な目標や推進手法等について

今年度の検討状況について

平成27年3月の「総支部長等会議」で基本的な方向性が了承された「会員拡大プロジェクト」は、以下の会議等で議論を深め、具体化を進めている。

①「アクションプログラム等推進特別委員会」で、今後の取り組みの各段階における具体策と「会員拡大プロジェクトチーム」の活動内容を議論した。

これにより、チームが具体的な取り組み案「会員拡大プロジェクト」の推進(案)を作成し、合わせて会員拡大用のツールの作成や各種会合での説明を行うこととなった。

②「運営会議」、「総務委員会財政・運営部会」でプロジェクトの趣旨等が基本的に了承された。

③「アクションプログラム等推進特別委員会」、「会員拡大プロジェクトチーム」

のメンバーがメール審議を行い、「会員拡大プロジェクト」の推進(案)を取りまとめた。

「会員拡大プロジェクト」の推進(案)概要

推進(案)は、「1.趣旨・目的」「2.基本方針」「3.推進期間」「4.目標」「5.本部における今後の取り組み」「6.総支部における今後の取り組み」で構成されている。

現会員にも魅力的な協会活動の充実を

「2.基本方針」は、①基本方針で、日造協の組織をあげて本部・総支部・支部が一体となって取り組むとしたほか、②取り組みの視点として、「単なる入会促進活動ではなく、現会員にとっても魅力ある日造協活動の充実を図る機会とする」とし、入会促進を図る多面的な工夫、日造協活動の果たす役割に理解を得た

アクションプログラム 業促進」プロジェクト

「女性就業促進プロジェクト」に思う

女性就業促進検討特別部会
部会長 酒井 一江

総会号に引き続き、アクションプログラム推進特別委員会の取り組みにスポットを当てていただき、ありがとうございます。

第1回目の部会の意見交換の内容等は、総会号でも紹介しました。その後は、メールによる電子会議を常時、運営しております。

●常時、運営している電子会議

電子会議の手順は以下の流れです。

- ①テーマの投げかけ
↓
- ②電子会議で意見交換（期間2週間）
↓
- ③まとめ
↓
- ④部会及びAP委員会へ報告
↓
- ⑤部会へAP委員会の意見報告
↓
- ⑥さらなるテーマの掘り下げと投げかけ

これを続け、テーマの精緻化とともに、意見の中から試験的にオフ会（例勉強会）を開催することや、新たなテーマの展開を図っていきたく考えています。

現在、①女性用の作業着、②女性の働く業界の広報手法、③仕事と時間の3つを主なテーマとして意見交換しています。

●部会に集まったアマゾネスたち

当部会に選ばれたメンバーは16人。それぞれの職域は、代表者、現場、設計、指定管理者事業、営業、経理・事務と想

定されるすべての職域から選ばれたメンバーです。年齢や既婚者、子育て中、未婚者。在所も北は群馬から沖縄まで、何もかも異なるメンバーが集まりました。

さて当日。作業着の方、スーツの方等、その服装からも立ち位置が解ります。せっかくの機会、何も言わずに帰ることがないように、全員に意見を求めました。遠慮がちに、しかし明確な意見を伺い、テーマを見つけるに至りました。

女性の集まりの意味は、男性には理解しにくい女性固有のこと。例えば、毎月の生理や妊娠、出産等性差による体調や体力と仕事との関係などは女性だけのほうが話し易く、また、女性を客観的に見られることにあると思います。

当日は、紛れもなく仕事師として、甘さのある女性に対しては厳しい意見が出ました。そこには女性を無条件に支援するといったスタンスは皆無でした。

しかし、誰もが女性独自の課題を認識し、前向きに取り組む意志を見た気がします。

そして、会議後、和田委員長のご好意により懇親会を行いました。会議時の静寂ははじけ、なんと姦しいこと!!「みんな会議では猫被っていたでしょ!!」と言う私に、ちょっと首を竦めながらビールの飲みっぷりがいいアマゾネスたちの実態に遭遇し、心強く、楽しい予感です。

●子猫ちゃんにはご用心

当業界はその昔から男が中心。「女なんざあ」と思いつつ、いざ若い女子を目の前にすれば、まあ、嫌われるよりは好かれる上司でいようと、言葉選びに努力さ

に刷新する。

③周知活動として、総支部・支部交流会等での説明や意見交換をはじめ、「担い手3法への対応説明会」、「資格制度関係研修会」など、さまざまな機会に、会員拡大プロジェクトの説明・PRを実施。

④総支部・支部への活動経費の助成・活動支援として、会員拡大につながる活動への助成やPR担当者の派遣を実施。

⑤入会促進措置の拡大として、入会申請書類の柔軟化、出版物・各種研修会の会員割引拡大、『日造協ニュース』への新規会員の紹介記事の掲載などを検討することとした。

若手会員が動きやすい環境づくりを推進

「6. 総支部における今後の取り組み」は、5つの枠組みで展開。①基本方針として、総支部の実情を踏まえつつ、総支部・支部活動の活性化や次代を担う「地域リーダーズ」の幅広い交流の促進等に視点を置いて活動を展開する。

また、②地域リーダーズ等の若手会員との連携による会員拡大の取り組み体制の構築は、地域リーダーズの活動強化、

れる方もおられるでしょう。

建設業界が男性社会であることは百も承知で女性達は入ってきます。しかし、性根は、様々ではないでしょうか。

仕事の厳しさを承知し、腕力も知力も全力投下してこの世界で生きようという人。その対極に、単位取得など何事にも要領が良く、成績も良かった。男性社会でも、うまく楽しく今まで通りにやれると自負がある人がいます。

前者は男子と同様に頑張りもきくので、配慮は必要ないと思われます。後者は善くも悪くも女の子らしく、男性対応の嗅ぎ分け能力に長け、男性に気配りを、助けをと思わせる。持ち前の性根ですから上手くいけば、さらに子猫道に磨きが...!?

男性上司のみなさん、子猫ちゃんが育つのは、みなさんにも責任があるのですよ。子猫ちゃんにはご用心、ご用心!そして、最初が肝心ですから、しっかりと目を効かせて、社の顔となるパワフルなアマゾネスを育ててください。

●期間移籍やトレード制は?

ところで、子猫道には無縁に見える当部会のアマゾネスたちは、女性の尊厳を維持し、仕事に取り組んでいるクールな面々にみえます。結婚と後継の立場のこと、出産、介護、病気の個人事情があっ

たとしても、それを超えてきた方や、若い方々も同様に仕事を続けるのではと想像します。

前述の個人事情は、女性に限らず、避けて通れない状況がありますが、能力のある人材は、離職することなく業界に留まり、長く活躍して欲しいと願っています。

そこで、私の勝手な妄想の始まりです。個人事情で、ある期間、仕事を離れる場合、それを補完する人材の期間トレードや、夫婦どちらかの転勤の場合、地方移籍の仕組みはできないでしょうか。サッカー選手のように。

●社長 s be ambitious !!

私の妄想の根源は、日造協が全国組織であること、総支部という地域組織があることにあります。

一企業でなにかもは困難ですが、地域の組織力を強化し、大きな事業を獲得して、さらには能力のある人を磨く。本部はその情報やニーズを得て、必要な場所への人材トレードを引き受けるということです。

全国800余社の社長さん達、志高く、新しい業態のやり方を模索し、チャレンジしてみてくださいませんか?

女性就業促進検討特別部会

	区分	氏名	会社名	総支部	支部	役職	調査・検討事項
1	部会長	酒井 一江	株淡窓庵	本部	東京	代表取締役	・工事現場における環境整備策の検討 ・女性の積極的な活用促進策の検討 ・就労環境改善策の検討 など
2	部会委員	蛭田佐智子	株蛭田植物園	本部	東京	代表取締役	
3	〃	藤本加奈子	箱根植木株	本部	東京	第二事業部チーフマネージャー	
4	〃	塚本 美保	株柳島寿々喜園	本部	東京	工事部係長	
5	〃	小山 京子	株富士植木	本部	東京	多摩支店主任	
6	〃	桑園亜希子	東光園緑化株	本部	東京	事業部管理課主任	
7	〃	松戸 幸子	株新松戸造園	本部	千葉	総務担当	
8	〃	井上 優美	山梅造園土木株	本部	群馬	公施設管理運営部課長	
12	〃	阪上恵保巳	株清香園	関東	埼玉	取締役副社長	
13	〃	佐々木 香	株日産クリエティブサービス	関東	神奈川	課長	
14	〃	薄井 美弥	株ウズ井樹園	中部	三重	専務取締役	
15	〃	小林 亜純	株小林造園	近畿	京都	総務部	
16	〃	吹上 笑美	株多々良造園	中国	山口	工事部主任	
17	〃	三好 裕子	四国総支部事務局	四国		事務局	
18	〃	原田 麻美	内山緑地建設株	九州	福岡	設計営業部	
19	〃	玉城真由美	沖縄総支部事務局	沖縄		事務局	

めの情報発信、総支部・支部の活性化にも寄与する取り組み、「地域リーダーズ」による交流の促進を図る。

推進期間は平成27～29年度の3年間

「3. 推進期間」は、平成27年度から29年度の3箇年間とし、1年目を推進体制の構築・周知重点期間、2年目を周知・入会促進重点期間、3年目を入会促進重点期間とした。

平成29年度900社、長期目標1,000社

「4. 目標」は、基本目標として、平成29年度正会員数900社、長期目標1,000社とした。

入会促進ツールを充実 協会パンフも刷新

「5. 本部における今後の取り組み」は、5つの枠組みで展開。①基本方針として、取り組み状況の集約・共有化を図り、各委員会等で具体的な活動を行う。

②入会促進ツールの充実として、プロジェクトチームに「PR資料作成作業部会」を新設し、2012年作成の協会案内パンフレットを入会促進用・発注者向け

若手会員が動きやすい環境づくりが課題となることから、会員拡大プロジェクトの担当を全国一律で地域リーダーズとするのは、本来の自主的な活動を萎縮する恐れがあるため、担当や体制を各総支部が判断することとし、若手会員が動きやすい環境をつくるため、本部からの助成金や総支部での予算措置、体制の構築を図る。

総支部の入会年度目標の目安“3%増”

③会員拡大期間、入会促進目標の設定は、3箇年間で各年度の取り組みの重点化を図り、入会年度目標は3%増を目安とする。合わせて入会促進の成功事例は本部に報告し、アクションプログラム推進特別委員会やプロジェクトチームで集約、全国に情報発信・共有化を図ることとされる。

勉強会、交流会など入会促進機会を設営

④入会促進機会（勉強会、交流会など）の設営とこれを通じた日造協・活動のPRでは、各総支部・支部の実情に応じて、地域リーダーズ活動の一環として本部助

成金も活用し入会促進機会となる勉強会、交流会などを設営する。

また、各総支部・支部での活動内容を紹介する資料を作成し、本部作成の入会促進用の協会案内パンフレットとともに活用する。

会員拡大プロジェクトの説明・PRに際しては、本部に説明・PR担当者の派遣を要請することとした。

熱意ある経営者のリストアップを図る

⑤前向きな経営者への膝詰めの勧誘としては、関心ある経営者、熱意ある若手経営者のリストアップが課題であり、各総支部・支部の実情に応じて、若手と協力して関心ある経営者、熱意ある若手経営者のリストアップを行い、総支部長・支部長で取りまとめの上、本部に報告。アクションプログラム推進特別委員会やプロジェクトチームで集約、共有化を図り、今後の会員拡大の可能性の検討基礎資料とする。

ふるさと自慢
和歌山県
徳川8代将軍吉宗の生誕地
実は「発祥」が盛り沢山

徳川8代将軍吉宗誕生の地である紀州和歌山、実は「発祥」盛り沢山の県なのです。

◆
皆様、鈴木姓の友人や知人はいませんか。

日本に200万人を越すとされる全国で2番目に多い「鈴木」姓は、海南市が発祥。

平安時代、熊野信仰を広めた神官の一族である鈴木氏がかつて居住していた屋敷は、2004年に世界遺産登録された熊野古道の玄関口である、藤白神社に隣接する森の中に「鈴木屋敷」として現存します。



藤白神社に隣接する森の中に現存する「鈴木屋敷」

平安朝の曲水泉と室町期の茶庭風を取入れた庭は和歌山県指定史跡になっている

平安朝の曲水泉と室町期の茶庭風を取入れた庭は、和歌山県指定史跡ですが、現在屋敷ともに痛みが激しく半壊状態となり、歴史遺産を残そうと再建計画が成されています。

再建に向けて、またルーツを探しに是非一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

◆
鈴木屋敷から車で5分程走った黒江は、漆器の全国三大産地の一つです。

この漆器は、岩出市にある根来寺の僧侶達により、日常的に使う汁器が生産されていましたが、豊臣秀吉の根来攻めで逃げた工人達が、技法を全国に伝えたこととされ、根来が発祥と言われています。

◆
漆器とともに日本が世界に誇る、調味料・醤油は湯浅町が発祥です。



漆器の全国三大産地の一つである「黒江」の街並み

紀州漆器



このように、わがふるさと海南市を中心に、車で40分程の場所で3つも発祥の地があるのです。

また、市内には5つの酒造があり、中でも紀州漆器の地、黒江に構える名手酒造の大吟醸「一掴」。山田錦で造る大吟醸の

一番美味しい所だけを雫で絞り「斗瓶」に取った品評会用の日本酒はおすすりです。

夏の涼に、お疲れ様の一言と一緒に、一杯どうぞ。

畑中雅厘子 (株井内屋種苗園)



名手酒造と大吟醸「一掴」



月に2回のリフレッシュ

山下葉子

初めてお抹茶をいただいたのは、幼稚園での学習時間でした。とても楽しい時間だった事を覚えています。その後は庭園を訪れた際にお茶室に入る程度でした。

◆
大学を卒業し、地元である高知に帰省してから、本格的に『茶道』を習いはじめました。

1カ月に2回のお稽古で、おいしいお菓子とお抹茶をいただき、普段の生活とは離れた空間に身を置くことができます。

『茶道』では、お点前や所作は勿論、掛け軸などの書、茶碗・茶入などの焼物、懐石でお出しする料理、その他学ぶ事は多岐に渡ります。

中でも仕事に直接関係のある庭は、露地としての使い方を体感することで、役石・役木の場所や意味が解ってきたと感じます。

◆
4年前、社内園場にある展示庭園に茶室が建ちました。構造や使い方などを先生に見ていただき建てた3畳の茶室で、《松風庵》といます。

名前にちなみ、庭には黒松と赤松を植栽しました。

◆
社中の方にお手伝いいただき催した茶室のお披露目を兼ねた茶会では、お客様や取引先の方をご招待しま



茶事のお料理

した。皆様に喜んでいただけて嬉しく思ったのと同時に、私自身もとても楽しかったです。

◆
お稽古に通いはじめてから日も浅く、学ぶこと・覚えることはまだまだ沢山あります。

ほんの少しですが、歩き方などの所作が身についてきたかなと思います。

初釜などのお茶会に参加することで、幼い頃から好きな着物を着る機会も増えました。

これからもずっと続けていきたい習い事だと感じています。



松風庵



お茶会のようす

事務局の動き

【7月】

- 1 (水)・資格制度委員会
- 3 (金)・事業委員会 (事業企画部会)・事業委員会
- 6 (月)・総務委員会 (広報活動部会)
- 7 (火)・技術委員会 (技術企画部会)・技術委員会
- 8 (水)・日本造園企業年金基金制度運営検討委員会
- 10 (金)・国土交通大臣表彰表彰式
- 13 (月)・アクションプログラム推進等特別委員会
- 14 (火)・植栽基礎診断士認定委員会 (試験部会)
- 15 (水)・事業委員会 (造園フェスティバル部会)
- 19 (日)・国際園芸「台中世界花博」 ~ 7/21
- 21 (火)・総務委員会 (財政・運営部会)
- 23 (木)・全国事務局連絡会議
- 24 (金)・第2回植栽基礎診断士認定委員会
- 27 (月)・総務委員会 (経営環境改善部会、社会保険未加入対策部会)
- 28 (火)・造園・環境緑化産業振興会事務局協議
- 30 (木)・国交省と建設産業専門団体連合会との意見交換会
- 31 (金)・技術委員会 (技術・技能部会)

【8月】

- 6 (水)・総務委員会 (広報活動部会)
- 11 (火)・技術委員会 (安全部会)
- 17 (月)・技術委員会 (調査・開発部会)
- 18 (火)・技術委員会 (安全部会)
- 19 (水)・アクションプログラム推進等特別委員会

- 21 (金)・事業委員会 (造園フェスティバル部会)
- 24 (月)・総務委員会 (総務企画部会)・総務委員会
- 25 (火)・全国造園フェスティバル企画審査会
- 26 (水)・資格制度委員会 (街路樹剪定士検討チーム)・公園緑地折下功労賞選考委員会
- 31 (月)・技術委員会 (技術情報・研修部会)

委員会等の活動

- 総務委員会 (財政・運営部会)
 - 委員会及び部会等会議における旅費・日当等に関する取扱要領 (案) 等について審議した。(7/21)
- 総務委員会 (経営環境改善部会、社会保険未加入対策部会合同)
 - 担い手の確保・育成に関する取り組みや社会保険未加入対策の今後の進め方等を審議した。(7/27)
- 技術委員会
 - 本部 (各部会) と総支部・支部の活動報告、次回開催について検討した。(7/7)
- 事業委員会
 - 本部 (各部会) と総支部・支部の活動報告、次回開催について検討した。(7/3)
- 事業委員会 (造園フェスティバル部会)
 - 今年度の全国造園フェスティバルの開催について、開催マニュアル、応援訪問、企画選考について検討した。(7/15)
- アクションプログラム推進等特別委員会
 - 女性就業促進と会員拡大プロジェクトについて検討するとともに、今後の造園界の将来構想について意見交換を行った。(7/13)

平成27年度 日造協主催 「職長・安全衛生責任者教育」講習会を実施

平成27年6月に実施したアンケート調査の結果から、今年度は、受講希望者の多い6都市で講習会を下記のとおり開催いたします。

工事現場の安全・衛生を確保するキーパーソンである「職長・安全衛生責任者」は、労働安全衛生法により一定の教育を実施することが事業者の義務付けられています。日造協では、国の指針に基づくとともに造園工事の特徴

協力会社の職員の方々を対象に全国各地での開催を推進してまいりますので奮ってご参加下さい。

開催のご案内は各総支部・支部より、追ってご案内いたします。各会場には定員がありますので、事前申込が必要となります。(詳細は、総支部・支部・本部へお問い合わせ下さい)

開催支部	会場	日程	申し込み状況
長野県支部	松本市	5月10～11日	開催終了
四国総支部	四国中央市	10月14～15日	事前申込 案内中
神奈川県	横浜市	11月7～8日	8月下旬 案内予定
大阪府支部	大阪市	12月4～5日	9月中旬 案内予定
和歌山県支部	和歌山市	1月19～20日	9月中旬 案内予定
新潟県支部	新潟市	1月21～22日	9月中旬 案内予定

編集後記 梅雨明けとともに暑い日が続いております。熱中症対策等万全を期し、猛暑に負けずがんばりましょう。